

**伊丹純**：(国立がん研究センター中央病院放射線治療科長)

①：「チェルノブイリ原発事故のあと、ロシアの人たちは牛乳などを通じてセシウムを摂取したが、ヨウ素による子どもの甲状腺がんを除けば、がんが増えたとの科学的データはない。今後の汚染状況にもよるが、今回検出されたセシウムの量なら、食べても健康への影響はない」

(「ガン完全克服マニュアル」4月6日)

■■これもチェルノブイリの過少評価である。今大人に甲状腺がんが増加中だし、2006年の時点で、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ三国の健康被害者は合計700万人にのぼる。ホルモンの分泌障害や免疫障害が起き、感染症にかかりやすく病気がち、疲れやすいといった症状が出ているのだ。

②：「学校に通う子供の生活から推定すると、吸入したり食物から取り入れたり、傷口から入ったりする可能性をすべて合計しても、内部被曝の量は、外部被曝の量の1%程度にしかない」

(「東京新聞」6月23日)

■■意図的に内部被曝を過少に評価している。外部被曝より内部被曝のほうが大きくなる場合も当然ある。

**加納時男**：(東電顧問・元参議院議員)

「低線量の放射線は『むしろ健康に良い』と主張する研究者もいる。説得力があると思う。私の同僚も低線量の放射線治療で病気が治った。」

■■放射線のホルミシス効果のことを言っているが、説得力があるとは思えない。「低線量の放射線治療」とは何のことか?そんな治療は聞いたこともない!